

PTA 役員選考

◆役員選考って？

選考とは、多くの物の中から適、不適などを考え選ぶこと。能力・人柄などをよく調べて適格者を選び出すこと。

役員選考とは、

- PTA組織を運営する役員としてふさわしいか？
 - 自分たちの代表として（PTAの顔として）ふさわしいのか？
 - 学校や地域といった他団体と上手くやっていける人だろうか？
- ということを考え人選することです。

《役員には主に3タイプ》

- ・ リーダーシップのある人（1人でいい）
- ・ 調整力・交渉力・コミュニケーション能力のある人（誰とでも上手く付き合える人）
- ・ コツコツと仕事をこなす人



◆選考の長所

（受ける側として）

- ・ 役職の選択ができる
- ・ あらかじめメンバーがわかる
- ・ 選ばれた理由が分かる
- ・ 断ることができる

（選ぶ側として）

- ・ 学年やクラス、地域性を考慮しバランスよく選出できる
- ・ それぞれの人柄や特性を考慮し、適材適所に配置できる
- ・ 学校や現役員の意見も入れやすい
- ・ 人間関係を考慮して選べるので次年度の役員会内でのトラブルを回避しやすい

◆選考の短所

- その年の選考委員の資質に左右されやすい（選考委員の考え方で決まる）



最近では、年度初めに学級委員と一緒に選考委員を選出する学校が多く、役員・委員を経験していない人が選考委員になってしまう可能性がある。せめて、1年間の活動内容や頻度がわかっている役員、学級委員経験者でなければ適格者を選ぶことはできない。

- 会員の意向とは違う役員が生まれることがある。
- ほとんどの学校園が推薦状を取っている。推薦の数は役員としてふさわしいことを表す指数ではないが、混同しやすい。



◆選考委員会の役割

- 会員の代表として次年度の自分たちのリーダーにふさわしい役員を決める
- まずは今年の選考方針を決めよう！（どんな役員会にするのか？）
- 会員の意向を確かめるために推薦状をとり、選考の参考にする
- 役職別に役員候補者を選出する（会長は会長として選ぶ）
- 次年度総会で選考の経緯と選考理由を報告し、役員候補者を紹介する

◆選考に当たっての注意点

- 選考委員会には選考対象となる人は入れない。（自分で自分を選考できない）
- 選考委員会には必ず役員を入れておこう（役員の仕事が分からなければ説明できない）
- 無記名の自薦・他薦の推薦状をとるところがほとんどだが、稀に立候補者を受け付けている場合がある。立候補とは役員候補者として名乗りをあげることで、選考委員に選考される役員候補者と立場上は同じである。立候補者を次年度の役員候補者から外した場合、なぜ選ばれなかったのかという理由を問われることが多い。選考方式と立候補はシステムの的に矛盾があり混乱を招く。

- ・ 選考内容（断った人や理由など）は絶対に外に漏らさない
- ・ 電話の時期やタイミング

仕事を持つ会員が多い中、電話のタイミングが夕食時や夜間になりやすい。

また、連絡網がない学校や入会届等で電話番号を記載してもらっていない

PTAは個人情報の取得方法についてトラブルになる場合がある。（訪問も同様）



- ・ 電話や面談では一方的にしゃべらない。

セールスの基本は『相手の話を聞く』と『雑談』。じっくりと話をきいてあげるとともに、具体的な話をしよう。間違っても歯の浮くようなお世辞を言ったり、ケンカ腰になったりしないように。



- ・ 相手の断る理由をよく聞いて一つ一つ解消してあげよう。そのためには準備が必要。具体的な活動内容や活動の時期や頻度を答えられるように用意しておこう。（別表参照）

《主な断る理由》

- ・ フルタイムで働いていて時間がとれない。
- ・ とにかく何もわからないので不安
- ・ スキルがない
- ・ 人前でしゃべるのがイヤ
- ・ 親の介護や自身や家族の病気
- ・ PTAに関して興味がない
- ・ 子どもが嫌がる
- ・ 周りの人にやりたがりだと思われるのがイヤ
- ・ 選考委員の態度が高圧的



これは、役員経験者の声を集めたものだよ！実際に役員になってみると、聞いていた話と違ってという経験から、役員を引き受ける時には確認しておこうという注意点だ。聞かれると思って準備しておこう！

「本部役員になつて」と声を掛けられた時の注意点

| 確認事項 | 引き受ける上で注意したいこと |
|--------------|---|
| 活動の実態 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 集まる頻度や活動の曜日・時間帯を具体的に伝えてもらう → できれば年間の活動予定表を見せてもらう |
| 未就学児への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 同伴可能かどうか、念を押して確かめる → 「誰かに預ける」が暗黙の了解の場合も |
| 仕事との兼ね合い | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 平日昼間の活動の有無。活動する場合は、仕事を理由とした欠席がどの程度生じるかの見通しを伝える → 総会、入学式・卒業式などの学校行事への参加が求められるPTAが多い |
| 夕方～夜の集まりについて | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 会長は、自治体や近隣校会長会など、校外の会議や行事への参加を求められる。代役を頼めるかどうかの確認も ◆ 留守番できない年齢の子がいる場合、欠席が可能か。子連れで参加できるのか |
| その他の注意点 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校創立50周年など、周年行事のある年かどうか ◆ 会長会や広報紙コンクールの幹事校に当たる年かどうか → 準備や接待が必要になり、活動が大幅に増える |

（2017年10月27日付 東京新聞朝刊）より

◆期間中に候補者を選べないとき

選考委員会を解散



代表委員会にて新たなメンバーで選考委員会を設置



『代表委員会だより』で、期間内に選考ができず選考委員会を解散したこと、新たな選考委員会を立ち上げた旨を報告。新たな選考委員の名前を会員さんにお知らせする。

◆役員選考の現状と課題

- ・ 会員どうしで顔や名前、人柄がわからない
- ・ 役員や委員経験のない人が選考委員になるために、仕事内容がわからない
- ・ 会員の生活形態が変化し、PTA活動に参加できる人が少なくなった
- ・ ポイント制や永年免除制などの為、やってほしい人は早々に免除対象になる
- ・ 選ばれる側の意識の変化（選考が成り立たない）



選考委員という名の選出委員?!

推薦状に名前があがった人を集めて、互選やくじ引きで役員を決めることは選考とは言いません。今のPTA活動では、会員同士のコミュニケーションが取れない現状があり、それぞれの『人となり』がわからない中では純粋な選考はできません。今まで、選考はbestではないけれどbetterだと言われてほとんどの校園が選考の形をとってききましたが、先の現状により徐々に選考の形態が変わってきました。また、今の会員の現状に合った形のPTAにしようとして改革している校園が多い中、改革を引き継いでいってくれる役員をどのように探すのかは難しい問題です。今後どのような役員選出方法がいいのか、会員全員で考えていく必要があるでしょう。

